

グラビア	地域を支える人 阿部正陽さん・岩手県八幡平市	1
発掘！地域の希望のタネ	群馬県高崎市 〈上野三碑〉	5
給食のじかん	〈かつお飯〉 高知県南国市 窪川利恵	6
焦点	二〇一九年の台風・豪雨災害から「連携」を学ぶ 鍵屋 一	10
書評	横田増生 著 『潜人ルポ amazon帝国』 林 鉄兵	16

特集 阪神・淡路大震災から四半世紀

	阪神・淡路大震災からの二五年を振り返る	室崎益輝	18
座談会	阪神・淡路大震災から学んだもの	清水誠一 + 小原王之 + 後藤公明 + 大村成行 + 井上孝次 + 林田怜菜	26
	阪神・淡路大震災の被災地で生まれた新たな災害法制—被災者生活再建支援法から「被災者総合支援法」へ	野呂雅之	36
	阪神・淡路大震災とコミュニティ—災害が頻発化する時代における意義と課題	宮城 孝	45
	被災地支援ボランティアの二五年	田尻佳史	54
各県自治研活動レポート	新たな情報発信の挑戦——一人ひとり胸の中に自治研の芽を育めるように—愛媛県本部	西尾祥之	60
UNDER35活動レポート	① 試行錯誤を繰り返し進化を続ける「まちステ」	掛川和輝	62
	② これからの地域づくりと自治研・労働組合の融合をめざして	仲 正恵	66
連載	『月刊自治研』を読む〈第五季〉① 政治学者の新しい動き	篠田 徹	68
	自治研センターの機関誌案内		75
	次号予告・編集部から		76

阪神・淡路大震災から四半世紀

近畿圏に大きな被害をもたらした阪神・淡路大震災から二五年が経とうとしています。振り返ってみると、被災者支援のあり方や、コミュニティの重要性、ボランティアの活発化などの契機ともなっていることに気づきます。その影響の大きさを振り返ります。



阪神・淡路大震災からの二五年を振り返る

阪神・淡路大震災を戦後史・災害史の中に位置づけ、この震災を検証するために必要な視点や復興のあり方を問い直します。(本誌一八頁)

阪神・淡路大震災から学んだもの

阪神・淡路の被災自治体でも、震災を経験した職員が少なからず、震災を経験したみなさんにお集まりいただき、当時を振り返り、今日とのつながりを考えます。(本誌一六頁)



阪神・淡路大震災の被災地で生まれた新たな災害法制

阪神・淡路大震災をきっかけに、多くの人たちの運動などによって生まれた「被災者生活再建支援法」。改正を重ね次第に使い勝手の良い制度になりつつありますが、まだ課題も少なくありません。(本誌三六頁)

災害が頻発化する時代におけるコミュニティの意義と課題

阪神・淡路大震災の復興過程では、仮設住宅や震災復興住宅への転居によるコミュニティの崩壊などが問題となりました。防災・減災、復興におけるコミュニティの重要性を考えます。(本誌四五頁)

被災地支援ボランティアの二五年

今ではあたり前のようになった被災地支援ボランティアですが、その存在が広く認識されるきっかけになったのも阪神・淡路大震災です。それから二五年のあゆみを振り返ります。(本誌五四頁)